

農林48号について、市と農協それから改良普及所、それから農家等で検討委員会等を作っていて、栽培指針というようなものをぜひ出し、品質向上ができるよう取り組んでいただきたい。

産業観光部長：

県の方から、植えるものを変えた方がいいのではないかという意見もあるが、48米というブランドを残したいことから、農協や県、担い手組織、市がしっかりと相談する中で、方針を示したい。

地区要望や代表区長会は今後どうなっていくのか？

総務部長：

要望等につきましては、区長さんのお名前で、その都度要望書を提出していただき回答している。

代表区長会は今後必要に応じて開催するようにし、その先については代表区長とも相談させていただく。

図書館をコミュニティコモンズというものにするというところで、非常に不安を持っている。小さくてもいいから、各町に置き、手軽に使えるようにしてほしい。

市長：

コミュニティコモンズは、図書館の本はそのまま本を読むだけでなく、市民が集い雑談や、子供が本を読むといった何にでも使えるようなスペースとして新たに生まれ変わり使い勝手が良く、地域にとって有効な施設にしたい。

教育長：

提言の趣旨を生かし具体的な再編について今検討している。

図書館をさらにこれまで以上に魅力ある図書館に変えていきたい。

司書の専門性を生かし、図書館の機能として情報収集や、レファレンス機能の充実といった、より幅の広いニーズに応え機能を高めていくと同時に、図書館

の利便性は極力なくさないように維持しながら、コミュニティコモンズとして、地域の方が集まって活動の拠点となる場所になって欲しい。

図書館のサービス機能が失われていくのではないか気にしていると思うが、それらについても、極力なくさない前提で、蔵書についても、今までのものを基本的に活用し、全部無くすということではない。

司書の配置等につきましても当然管理することが必要になるため、どういう形がいいか今後検討し、柔軟な対応を行う。

中学校の統合の問題について

教育長：

中学校の統合の問題については、非常に重い問題。北杜市の生徒数が減ってきているということと、小規模校が増えている。小規模というのは学年単級、全校で3学級の学校が半数で、今後全体が半数になっていくと、さらに小規模校として進むことが懸念される。

当然子供の数は増えていけば、少し持ち直していくことも考えられるが、2030年に仮に倍になったとしても、単級の状況は変わらないという見込みもある。中学校の保護者に向けて説明会も行ったが、小学校と違い、学級の数によって教員が配置され免許を持った教員が配置されない。つまり北杜市で学ぶ人たちにとっては非常にマイナスであると教育委員会は考え、そのことも説明している。

部活動の問題も、小規模校で男女合わせて四つ程度しかないため、自分のやりたい部がないため、中学校は隣の中学校に行く。また、他市中学校に行く現象が多くなっている。

もう一つは子供たちを取り巻く教育環境の問題があり、長い子は保育園から中学校3年生まで12年間、同じメンバー。人間関係が深まる面もあるが、一度崩れたら修復ができないという状況もあった。子供によっては小学校の卒業と同時に隣の中学校に進学を希望し、また私立の学校を希望するという事例も今出てきている。小学校から中学校に入るにあたり、成長の発達段階は違ってくるので、そこに合わせて交流交友関係の広がりを持たせたい。色々な友達、色々な価値観を持った子がいることなど、視野を広げてあげたい、さらには今住んで

いる地区と隣の地区が一緒になることによって、さらに北杜市を実感してもらいたい。そういう部分を再編整備の検討委員会で話し合っている。

公共施設の適正化の話がでたが、子供たちの教育環境、指導開放ということをも最重点として考え、統合が大前提ではなく子供たちの環境を整える、中学生の環境をどう整えるかを検討して、結果として水平統合も望ましいという検討がされていることを理解していただきたい。

図書館には、本の事を相談する司書がいて図書館の機能だと思う。

図書館は図書館として残し、コミュニティコモンズという共有の広場を付け加えるこういう形で進めて欲しい。

市長：

図書館機能は、色々な意味で役割があると思いますので、そういう機能をしっかり高めていきたい考えは同じ。

その手段として、司書がイベント等をやりたいという要望もある。まとまって活動していきたい声も叶えながら、本を中心にした文化活動が、より発掘できて機能していくと思っている。

教育長：

北杜市として三つの図書館をさらに機能を高めて、幅広い世代の皆様に図書館を利用してもらいたい。

若い世代の図書離れが進んでいるが、そういう方たちにも図書館に足を運んで図書館の魅力をぜひ知ってもらい、身近に感じてもらいたい。

甲陽病院受診の際、診察を待たされるのは仕方ないが、支払いの段階でまた待たされるのを何とかしてほしい。

市長：

市立病院は、甲陽病院と塩川病院2つあるが、医師と看護師不足が課題。

本市から医師や看護師になっていただくよう、育てていくことも見据えないと人材不足解消にはつながらないと考えている。

また、マイナンバーカードをうまく活用しながら、手順の簡素化しにも取り組んでいく。

北杜市の子供たちがどうなるか、地域がどうなるかを、真剣に考えるべき。

現在の規模でも不登校者がいるのに、さらに大きな規模にすること、少子高齢化地域での学校の位置づけ、少人数、小規模教育の積極的な意味と人間関係の大切さ、地域と子供という観点から丁寧に考えていかなければならないのでは。

教育長：

答申の中身をよく精査し、それを受けて再編整備検討委員会を開いている。

再編成方針は審議会で2年半にわたり審議している。最終的に答申の中身は、水平統合、垂直統合、組み合わせという3案がでた。

答申の中で五つの課題が与えられ、

- 一、生徒の減少に対してどうするか。
- 二、学校と地域の関わりをどうするか。
- 三、小規模校であることについてどう考えるか。
- 四、部活動が十分できないことについてどう考えるか。
- 五、子供たちが多様な人間関係を築けないことに対してどう考えるか。

こういう課題に対して答申が出されて3案が示された経過がある。

今度再編整備検討委員会は、その3案を受け検討を行い望ましい方向性を示しながら保護者等に説明をし、保護者の意見も伺っている。

現在の再編整備でも5つの視点を中心に考え、その中で地域との関わりも含まれている。決して地域を切り離して検討を進めているわけではない。そもそもこの統合の話が出たのは、子供たちの教育環境整えることと、指導体制を整えることが大きな課題。地域との関わりは、その課題に対して今後どう考えていくか検討する。

義務教育段階の特に小学校時代で言えば、歩いて通える、距離の中で地域の皆様に声をかけていただいたり、物に触れたり、そういう中で育つということは、生きる力をつけていくために大切な事。それを受け中学校は、校区の広がり

中で色々な子供たちと関わり合う、そして他地域の子供と関わり合うことで他地域を知り、自分の地域を知り、北杜市を知ることに繋がっていく。成長の段階に合わせてやはり中学生にはそういう段階が必要である。高校になれば全県1区になり、多くの子たちが自分の価値に応じて外へ出ていく状況もある。

大きい学校になれば、不登校問題はどうなるかについて、大きな学校になってもこの問題については、丁寧に対応していく。

大きい学校だから不登校も増えることは、基本的にはないと思っている。大きい学校であっても小さい学校であっても、それは様々な要因の中に出てくるのであって、しいて言うならば大きくなることによって組織的な対応ができるようになるということは、利点だと思う。

甲陵高校の問題ですけども、中学は今40名いる中で、北杜市の生徒は10数人他は、市外から来ている。

北杜市立の甲陵中学と、他の色々な町の市立中学と格差がでるように感じる。

甲陵中学の費用等丁寧な説明を。

教育長：

甲陵中は、40人定員で実施をし、非常に魅力を感じて受験してくる。

基本、当然市内を対象にしているが、通学距離が1時間程度であれば受験可能で、市内外から毎年100名から120名の子たちが受験をし、頑張ってきてくれる。

様々な地域から集まるため、子供たちは40人1学級だが、新しい人間関係を作っていく。様々な地域から、色々な価値観の学びがあり、例え1学級でもとても意味のある学級になっている。

甲陵中は甲陵高校の手助けも得ながら、1学級を2つに分けて20人で授業を受けたり、3クラスに分けて10数人で授業を行うなど工夫もしている。さらにそのまま甲陵高校に行くが、甲陵高校ではさらに80人他から入ってくるため、さらに人間関係が広がっていく。

甲陵中の内容については当然小学校にも、それから説明会等でも十分な説明をしてきているため、ぜひご理解をお願いしたい。

18歳～22歳の市民の名簿を自衛隊に提出することについて、質問したい。

自衛隊で個人情報保護されることが確認できたので、提出するといっているが、世界的に戦争等の話題がでているため、非常に不安。勇気を出して、私達の市民を守る立場から、以後、自衛隊名簿提出はしないでいただきたいと思う。

市長：

個人情報保護の観点が消されたことで、現在名簿を提出している。

戦争の有無と、自衛隊について、少し離して考えなければいけないところがある。自衛隊は本市にも大きな貢献をいただいております、災害時にも非常になくってはならない組織だと思っている。自衛隊が全国で果たしている役割が非常に大きいと考えており、自衛隊の活動に対し私達もしっかり支援をしていかなければならないと感じている。

明野にコンビニがなく、公共施設の機能の充実というようなこともあったので、ぜひ総合支所の施設か、敷地内で、コンビニを誘致し町の活性化を。

市長：

明野総合支所にコンビニについては、そのような希望がある企業があれば、積極的に打診していきたいと思う。

説明資料でグラフや図がでるがどういったロジックで繋がるか不明。

甲陽病院の待ち時間とマイナンバーカードがどう関連するのか？マイナンバーと保険証の紐づけは市長が判断できるのでは？

国民皆保険制度を壊さないためにも、保険証はぜひ廃止しないでいただきたい。

市長：

なぜグラフを使うかは、より皆様にわかりやすく説明するため、数字は一つの指標であり、一目瞭然であるため数字で市の政策の指針をお示しさせていただきました。

保険証を廃止するかしないかについては、市は国ではないので、そういうことは考えていないが、マイナンバーカードを使うことにより、利便性があがると

思っており、お持ちの方は使っていただければ便利なことがあることをしっかり伝え、活用していただきたいと思う。

介護認定率を上げることが罪悪みたいになっている。認定率を抑えられる方向に、この資料が使われてしまうのはとても危険だと思う。北杜市の高齢化率40%は2050年の全国の数値に匹敵すると聞いた。30年先を悲観的に捉えるのではなく、30年先を見据えて、全国の復興モデルをスタンダードになるようなものを作っていくぐらいの気持ちでいただけると、高齢者にとっては、とても安心できると思う。

福祉保健部長：

介護のところに关しまして、先を見据えた政策をとというご意見について、基本的にやはり介護が始まって以来、北杜市を含む市町村に関しては、高齢化率は非常に高いことは事実。当時から保健師や職員が、まずは介護予防をしっかりと進めなければ、高齢化率が高くなり、要介護者が増えてしまうということで、ここに関してはしっかりと取り組んでいます。その成果があり今の要介護者数が出てきていると考えている。

単純に介護認定率が低いから健康だということではなく、まずは市民の皆様が健康について十分ご理解をいただいて御努力をいただいていることも承知している。

今後とも介護予防にしっかりと取り組み、市民の健康を守っていきたいと考えている。

【意見：回答無】

先ほどの図書館にしろ、学校統合にしろ、今後子供のためにどういう北杜市を残していくかが、30年先を見据えてやっていく中で大事になってくると思う。今の北杜市の現状は、公共施設、小中学校も温泉施設も県内で一番多い。しかも老朽化していて、直すには費用もかかる。

お金を出すのは嫌だけど、そういう施設は残していきたいというのは、ちょっと虫のいい話のような気がする。

子供たちはもう旧町村にあまりこだわらないで育てていくことが大事。

色々なところの中学校が、縦に水平に統合することは、子供たちにとってとてもいいと思う。

地域も大事だけれども、ぜひ子供たちを優先、今後は子供たちのために、何が本質で何が大事なのかを考えながらやっていくのがいいのかなと思う。

子供たちは多分そんなに地域にこだわって育っていないのではないかなと思う。私達年寄りも、北杜市になる前をよく知っているから、そういう状況で育ったから、例えば支所も各地区にあるとか、図書館も各地区にあるとか、だから公共施設が多い。

それを維持させるために、これからの子供達に税金を払わせるわけにはいかないじゃないですか。

そういう意味で統廃合をしていくことも大事だし、図書館もコミュニティ的に。そこに本を置いてあれば寄付してもいいのではないかな、そこで読書会をしてもいいのではないかな、そういう場所が設定されていけば使いやすいなとも思うし、色々考えて子供たちにどういう北杜市を残しておくか。

確かに40%の老人が多いので私もその中の1人だが、もう若い人たちが本当に子育てをしやすいそういう北杜市を作ってもらいたい。だから子供に対するお金はかけてほしい。本当に子育てをしている世代の人たちにもかけてほしい。

節約できるとか、我慢できるとか、私達も協力できるところは協力する形でいいかないと、国として駄目。成り立たなくなるというか、立ち行かなくなるような気がする。

そういう気持ちで私はいつも、孫に接したり子供たちに接しております。

そういう意味で、こんな市長と語る会は本当に今まで私が構想していた市の構想と全然違う方向の意見ばかりあるので、びっくりしました。

ぜひこういう意見もあるっていうことを、市の方々、区長さんも言っていただいて、皆さんの意見を聞きながら特に子供を中心に持って行ってほしいなと思う。